

明治末～昭和初期の文学

[I] 反自然主義(明治末～正)

(a) 1 耽美派 (唯美派)…雑誌『三田文学』(慶応系)『スバル』 芸術至上主義 精神より官能

2 谷崎潤一郎 『3 刺青』(1910) 『痴人の愛』(1924)

4 永井荷風 『冷笑』(1909-10) 『5 腕くらべ』(1916-17)

佐藤春夫『田園の憂鬱』※詩人としても活躍

(b) 6 白樺派 …同人雑誌『7 白樺』 学習院系 個人主義・人道主義 キリスト教の影響

8 武者小路実篤 『9 その妹』(1915) 『人間万歳』 ※宮崎県に「新しき村」(共同生活農場)

10 有島武郎 『11 或る女』(1911) 『カインの末裔』 ※北海道の有島牧場の小作人に土地を解放

12 志賀直哉 『城の崎にて』(1917) 『13 暗夜行路』(1921-37) 『和解』

倉田百三『出家とその弟子』(戯曲) 『愛と認識の出發』(評論)、里見弴(有島の弟)『多情仏心』

[II] 14 新現実主義…現実を日常生活から観察 耽美派や白樺派への反発 大正中期以降の文壇の主流

(a) 15 新思潮派 (新理知派)…同人雑誌『16 新思潮』(第3期・4期) 東大系 理知的

17 芥川龍之介 『18 羅生門』(1915) 『鼻』 『芋粥』 『河童』 『或阿呆の一生』(1927)

19 菊池寛 『父帰る』(戯曲 1917) 『恩讐の彼方に』 雑誌『文藝春秋』(1923)

山本有三『波』(1923) 『女の一生』 『真実一路』(1936) 『路傍の石』 久米正雄『学生時代』

(b) 15 早稻田派…庶民的私小説(作者自身がモデル:自然主義的)『早稻田文学』

宇野浩二『蔵の中』(1919) 葛西善蔵『子をつれて』(1919) 広津和郎 ほか

[III] 大正末～昭和初期の2つの系列

(a) 16 プロレタリア 文学…第一次大戦後 労働者の立場 革命の文学 ※農民文学も

雑誌『17 種蒔く人』(1921～23)…小牧近江、金子洋文ら 反戦平和 震災で廃刊

→『文芸戦線』(1924～31)で復活 日本プロレタリア文芸連盟(1925～28)の結成

→全日本無産者芸術連盟(NAPF)…急進的 雑誌『18 戦旗』 蔵原惟人・中野重治ら

19 葉山嘉樹『海に生くる人々』(1926) 20 徳永直 『21 太陽のない街』(1929)

22 小林多喜二 『一九二八年三月十五日』(1928) 『23 蟹工船』(1929) 拷問により虐殺

…三・一五事件(共産主義弾圧)を題材

他に、黒島伝治『電報』 『渦巻ける鳥の群』 宮本(中条)百合子、前田河広一郎ら

(b) 24 新感覚派 …感覚的表現を主張 文体の革新をめざす 雑誌『文芸時代』

25 川端康成 『26 伊豆の踊子』(1926) 『雪国』 『山の音』 ※のち ノーベル文学賞

27 横光利一 『日輪』(1923) 『機械』 『蠅』 梶井基次郎『檸檬』(1925)

その他の文学

大衆文学 28 中里介山^{かいざん} (『31 大菩薩峠^{だいぼさつとうげ}』1913-21)、吉川英治(『宮本武蔵』1935-39)、
直木三十五^{おきらぎ}、大佛次郎^{おほぶつじらう}、江戸川乱歩^{えどがわらんぷ}、野村胡堂^{のむらこどう}、林芙美子^{はやしふみこ}、白井喬二^{しらくわじ}

児童文学 32 鈴木三重吉^{すずきみよきち} ら…児童雑誌『33 赤い鳥^{あかいとり}』(34 小川未明^{おがわみめい}ほか)
宮沢賢治『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』『注文の多い料理店』

自由詩 35 高村光太郎^{たかむらみつたろう}『道程』『智恵子抄』 36 萩原朔太郎^{はぎはらしよくたろう}『月に吠える』『青猫』
34 室生犀星^{むろせいせい}『抒情小曲集』(詩)『性に目覚める頃』(小説)

俳句 新傾向運動 <例> 河東碧梧桐^{かとうひがしへきごとう}(主観主義)、荻原井泉水^{おぎわらせいせんすい}『湧出るもの』

短歌 アララギ派…35 斎藤茂吉^{しやうこう}『赤光』『あらたま』、島木赤彦^{ひまきあかひこ}『氷魚』『柿蔭集』
ほかに 若山牧水^{わかしやまぼくすい}『別離』『くろ土』

【センター正誤問題に挑戦】<1997A本試験、1998B追試験、1995本試験、1997A追試験より>

- ①大正時代、演劇の世界では築地小劇場が創設され、知識人に愛好された翻訳劇中心の新劇が発展した。
- ②梅原竜三郎らの洋画家が、文部省美術展覧会(文展)に対抗して二科会を結成した。
- ③武者小路実篤らの白樺派や、谷崎潤一郎らの耽美派などに**かわって、国木田独步らの自然主義派が文壇の主流を占めた。**
- ④民衆の生活を描こうとする文学界の気運の中で創刊された雑誌『種蒔く人』は、プロレタリア文学運動の出発点となった。